



令和2年6月12日  
東京都千代田区四番町5番地3  
科学技術振興機構（JST）  
Tel：03-5214-8404（広報課）  
URL <https://www.jst.go.jp>

## 「ジュニアドクター育成塾」 令和2年度採択機関の決定について

JST（理事長 濱口 道成）は、「ジュニアドクター育成塾」における令和2年度採択機関を決定しました（別紙1）。

ジュニアドクター育成塾は、将来の科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて、高い意欲や突出した能力を持つ小中学生を発掘し、理数・情報分野の学習などを通じてその能力を伸長させる体系的な取り組みを支援するものです（1件あたりの支援費：上限1,000万円/年 支援期間：5年）。

本年度は、令和2年1月15日（水）から2月25日（火）の期間に募集し、10件の応募がありました。その後、外部有識者で構成される委員会（別紙2）にて審査し、3件の機関を決定しました。その結果、令和2年度の実施機関は27機関となります。

なお、事業の詳細については下記のホームページをご覧ください。  
ホームページURL：<https://www.jst.go.jp/cpse/fsp/index.html>

### <添付資料>

- 別紙1：「ジュニアドクター育成塾」令和2年度採択機関・企画一覧
- 別紙2：「ジュニアドクター育成塾」推進委員会 委員一覧
- 参 考：「ジュニアドクター育成塾」令和2年度募集の概要

### <お問い合わせ先>

科学技術振興機構 理数学習推進部 能力伸長グループ  
〒332-0012 埼玉県川口市本町4丁目1-8 川口センタービル  
日紫喜 豊（ヒシキ ユタカ）  
Tel：048-226-5669 Fax：048-226-5684  
E-mail：[fsp@jst.go.jp](mailto:fsp@jst.go.jp)  
※お問い合わせは電子メールでお願いいたします。

「ジュニアドクター育成塾」  
令和2年度採択機関・企画一覧

機関名	概要
企画名	
山形大学	本企画は、理学部が中心となり行ってきた山形サイエンスアカデミーの開催回数および分野を拡大し、より充実した内容で実施するものである。昨年度までの5年間において受講生を選抜し、実験講座、自由研究指導を中心に、毎年20人前後の小中学生を対象に実施してきた。今回、分野をサイエンスからSTEMの分野に広げ、1年かけてプログラムを実施し、自分の興味のあるテーマを見つけて、2年目からは探究活動に取り組む。指導はICTを利用して大学院生が中心に行い、大学教員なども適切にアドバイスする。最終的に高校生の研究発表の場である山形県探究型学習課題研究発表会において発表できるレベルまで指導する。全国規模の理科研究コンテストにも応募する。
ヤマガタシステム（STEM）アカデミー	
国立高等専門学校機構 富山高等専門学校	富山高等専門学校（富山高専）の持つ高い研究力および低年齢層教育力を生かし、課題解決型の取り組みを通じて、小学生、中学生の好奇心を刺激し、科学技術分野における研究・開発者の卵を育成する。第1段階では、海洋科学実習での沿岸地域社会の課題を発見し、科学的な解決を模索することを通じて、興味のある事象について調査し、データ・情報を適正に処理する能力を醸成する。また、ロボットプログラミング実習を通じ、論理的思考力を高める。さらに、本校各学科・研究室の研究を紹介する企画を定期的に行い、興味を喚起する。第2段階では、受講生を富山高専の専門研究室に配属し、海洋環境、IT、ロボット、先端マテリアル、先端化学、量子科学などの先端的研究に従事させる。突出した能力を持つ受講生には積極的に先端研究に挑戦させ、学会などで研究発表させる。
きみも研究者！ 富山高専で実践する海洋・ロボットを題材とした次世代人材養成プログラム	
国立高等専門学校機構 和歌山工業高等専門学校	和歌山工業高等専門学校は自然環境に恵まれた紀伊半島の西沿岸部に位置し、実践的技術者育成機関として教育研究活動を展開してきた。そこで本企画では、紀伊半島海域に関わる環境・エネルギー問題、食料問題、少子高齢化社会、安全・安心などの課題解決に資する人材の育成として、基礎学力、創造力、問題解決能力、プレゼンテーション能力など従来の技術者教育的側面を強化し、さらに予想外のものを発見する能力（セレンディピティ）に基づく天才型の科学技術イノベーション人材育成プログラムを提案する。この教育プログラムでは、紀伊半島海域に関わる海洋科学技術、および持続可能な開発目標「SDGs」をテーマとして、紀伊半島課題発掘型の海洋科学技術イノベーション人材育成に関する取り組みを実施する。
紀伊半島の海洋から学ぶSDGs型ジュニアドクター育成プログラム	

**「ジュニアドクター育成塾」推進委員会  
委員一覧**

役割	氏名	所属
委員長	神崎 亮平	東京大学 先端科学技術研究センター 教授
委員	金本 吉泰	酪農学園大学 准教授
委員	木村 健太	広尾学園高等学校 医進・サイエンスコース統括長
委員	小路 徹	札幌市立新川中学校 教諭
委員	白木原 香織	鈴鹿工業高等専門学校 機械工学科 准教授
委員	隅田 学	愛媛大学 教育学部 教授
委員	西嶋 美保子	アドビシステムズ株式会社 政策渉外担当シニアマネージャー

（委員は五十音順）

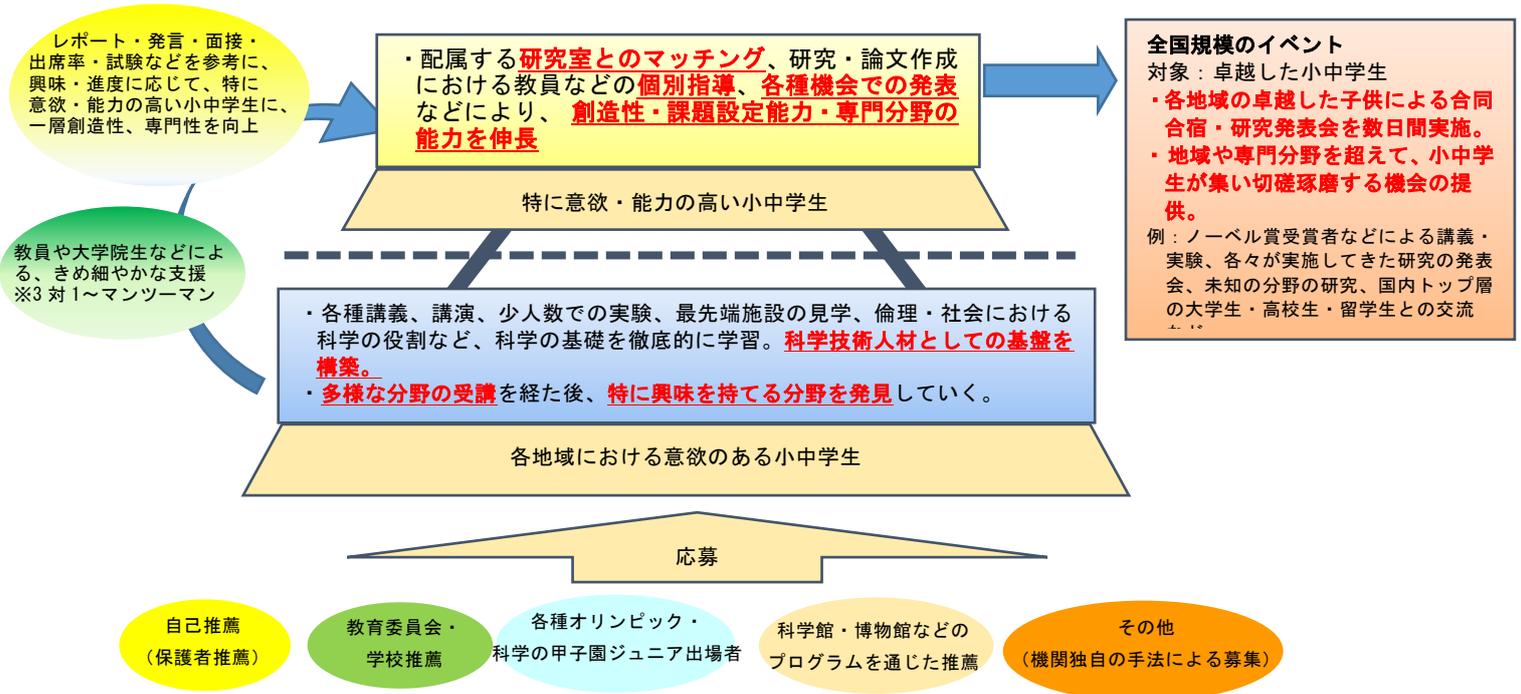
（所属機関、役職は令和2年4月30日時点）

※所属機関から応募があった委員は、当該応募の審査・選定には一切関与していない。

# 「ジュニアドクター育成塾」 令和2年度募集の概要

## 1. プログラムの趣旨

将来の科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて高い意欲や突出した能力を持つ小中学生を発掘し、理数・情報分野の学習を通じてその能力を伸長させる体系的育成プランの開発・実施を行うことを支援します。



## 2. 実施機関

国公立大学、高等専門学校、公的研究機関、科学館、博物館、公益法人、NPO法人、民間事業者（法人格を有すること）およびこれらの施設・法人の共同による実施

## 3. 支援対象期間

最大5年間

## 4. 採択数・支援額

採択数3機関程度（1機関あたりの支援上限額：1,000万円／年度）

## 5. 募集期間

令和2年1月15日（水）～令和2年2月25日（火）

## 6. 募集の詳細

以下のURLをご覧ください。

[https://www.jst.go.jp/cpse/fsp/kikan/jrdoctor\\_youkou.html](https://www.jst.go.jp/cpse/fsp/kikan/jrdoctor_youkou.html)